

DI (Diffusion Index = 景気動向指数)とは

各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

・DIがプラスなら…好転、上昇基調 ・DIがマイナスなら…悪化、下降基調

記号の見方

DI 値	-25P 以下	-25~-10P 未満	-10~10P 未満	10~25P 未満	25P 以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間……2018年1月~3月
対象企業数…148社

	前期	今期		来期見通し	
全産業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	▲0.7	▲6.3	→	2.1	→
売上額	▲4.1	3.4	→	9.5	→
資金繰り	▲3.4	▲11.0	↘	0.7	→
採算	▲9.5	▲9.0	→	2.8	→

業種	前期	今期		来期見通し	
製造業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	3.1	0.0	→	6.9	→
売上額	▲6.3	3.1	→	15.6	↗
資金繰り	▲6.1	▲9.4	→	12.5	↗
採算	▲12.1	▲3.1	→	15.6	↗
建設業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	10.7	▲3.7	→	▲4.2	→
売上額	0.0	▲3.8	→	▲7.4	→
資金繰り	▲7.1	▲3.8	→	▲7.4	→
採算	0.0	▲7.4	→	▲11.1	↘
卸売業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	▲27.3	▲4.5	→	▲13.6	↘
売上額	▲31.8	9.1	→	▲13.6	↘
資金繰り	▲4.5	▲4.5	→	▲4.5	→
採算	▲18.2	0.0	→	▲9.5	→
小売業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	▲3.3	▲10.7	↘	0.0	→
売上額	16.1	21.4	↗	14.3	↗
資金繰り	▲9.7	▲20.7	↘	▲7.1	→
採算	▲10.0	▲14.3	↘	▲7.1	→
サービス業	H29.10~12	H30.1~3		H30.4~6	
業況	5.7	▲11.4	↘	13.2	↗
売上額	▲5.7	▲7.9	→	26.3	↗
資金繰り	8.6	▲13.5	↘	5.4	→
採算	▲8.6	▲22.2	↘	16.2	↗

業況の不透明感は続く、卸売業は回復、製造業・サービス業は来期に期待

【今期の景況】

全産業平均の業況DIは▲6.3となり、前期(平成29年10~12月)の業況DI▲0.7よりも5.6ポイント悪化した。売上額は回復したものの、資金繰りはマイナス幅が拡大した。各業種の業況DIは、卸売業が▲4.5ポイントで前期より22.8ポイントプラスとなり、大きく上向いたが、そのほかの業種では悪化している。

【来期の見通し】

全産業平均では、すべての項目でDIがプラス値となり、資金繰りと採算においては大幅な回復への期待がうかがえる。各業種の業況DIは、建設業と卸売業は悪化の見通しで、そのほかの業種は改善の見通しとなっている。特に、製造業とサービス業は今期と比較して、業況DIがプラス値に転じており、期待感がうかがえる。

【回答企業のコメント】

- 仕入単価の上昇と小売業の進出による競争激化のなかで、資金繰り改善が大きな課題(卸売)。
- 既存商品での価格転嫁が難しいこともあり、高付加価値商品の販路開拓や生産体制の構築が急務(製造)。
- 大河ドラマ「西郷どん」放映に伴う国内観光客やインバウンド増加への対応が必要(サービス)。